

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

地方活性化とは地方が行うこと 野口 悠紀雄 (早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. 安倍晋三首相は、「地方創生」を打ち出し、「地方活性化を経済政策の最優先目標にする」とした。これに対する新聞投書欄等での反応には、「私の町にも国がさまざまな施設を造ってほしい」という類いの意見が見られる。「地方活性化」とは、中央政府がやることではない。地方が行うことだ。「地方振興」とは、「国が何かをやってくれるのを待つこと」ではない。地元の人々が工夫し、努力することだ。これを実現するために必要なのは、地域のやる気と、何をやるかというアイデアである。
2. 日本経済を再活性化する原動力も、政府の成長戦略ではなく、地方の創意工夫であるべきだ。1990年代にアメリカ経済を再活性化したIT革命は、連邦政府があるワシントンから遠く離れたカルフォルニアで起こった。それは、政府の支援で実現したことではない。ベンチャー企業がガレージで新しい事業を立ち上げて実現した。
3. 日本でも、江戸時代にコメの先物取引という先端的な金融活動が行われたが、これも幕府の指導や援助で生まれたものではなく、幕府の統制に対抗する形で生まれた。だから、本来は地方が国の発展を助けるのであって、国が地方を助けるのではない。以上は当然のことであるが、地力本願的思考があまりに強いので、あえて指摘した。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014年9月27日号)

経営者のための理念・哲学

日本精神の要諦

荒井 桂 (郷学研修所所長)

1. 私は山鹿素行の言葉を挙げると、一つには「大丈夫、唯今日一日の用を以て極みとすべきなり」という土道論の一節をご紹介します。人の上に立つほどの立派な人間は、この一日をどう真摯に生きるかを以て生き方の根本にしなくてはいけないという教えです。安岡正篤先生のお言葉を借りれば、「永遠の今を愛する心」、この一瞬を大切に一日一日を生きる。
2. 安岡先生の「山鹿流政治論」の中に、「五治」というものがあります。(1)威 (威厳) (2)愛 (国家や国民への思いやり) (3)清 (清潔) (4)簡 (簡明) (5)教 (教化) の五つ、これこそは統治者に必須だという教えで、日本精神の要諦です。

(参考:「致知」:2014年12月号)

人事・労務について

場を提供し育てる

橋本 孝之 (日本IBM会長)

1. 最近の日本では、場 (例えば海外) を提供する経営者が減り、一方の若者も望まなくなっています。経営が短期志向で利益重視になると場を作らなくなりますし、若者にとってもやっぱり日本は居心地がいいから出て行きたくない。しかし、無理やりにも、場を作るのです。
2. 会社のリーダーには「若手に場を提供しましょう」と強く言いたい。そして場をもらった人はそれに対して応えていく。これが繰り返されることによって会社や社会が変わってくると思います。人間は誰でも、変えたくない。今日がいいものです。変えるということは、居心地が悪い環境に行くことですし、努力しなければなりません。けれども、一回動き始めて、その環境に慣れると、結構自分で動けるようになるものです。

(参考:「日経ビジネス」2014年9月29日号)

古典に学ぶ

虚

(解説) ある人が列子にきいた。

「あなたはなぜ虚を尊ぶのですか」

列子はこたえた。

「いや、虚は尊ぶも尊ばないもない」

(注) 尊べば虚ではない。列子にいわせると、尊ぶ、尊ばないという価値判断を下すこと自体、すでに虚ではないというものだ。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)